

トピックス

1. 大雪 寒波 熱い冬

2. 弥生三月～金平糖の夢～



福留経営労務管理事務所
姫路龍馬会
社会保険労務士・行政書士
福留章

龍馬通信

No. 3

2018年3月号

弥生 三月～金平糖の夢～

弥生の語源は、起草弥生月が変化したものと言われています。「弥」は「ますます」とか「いよいよ」という意味で、木や草がますます生い茂る月ということになります。春の訪れは人々の心を夢見心地にさせます。早春の頃は特に期待感が高まってその日が待ち遠しくなります。春を代表する花と言えば桜、日本人の桜好きは格別なものがあります。桜の別名に「夢見草」というのがあります。人々が厳しい寒さから解放されて、色々な夢を描く季節に咲く花、桜の別名として秀逸だと思います。夢の一粒といえば「金平糖」を思い出します。色も形も可愛くて、一粒口に入れるだけで夢が広がっていく気がしました。煙草、南瓜、天麩羅などと一緒でポルトガル渡来のもの。コンフェイトに「金平糖」と当て字した日本人の感覚もすごいと思います。夢ひらく春の訪れ、あなたも草木と一緒に見る夢で胸を一杯にしませんか……。

ちなみに実は私の誕生日は2月29日。4年に1回ではあまりに不憫と母が1日ずらして3月1日生まれで届出。よって戸籍上は3月生まれ。こういった場合、生まれ月による占いは2月生まれで見るべきでしょうか。それとも3月生まれ。どなたか教えてください。



随筆 『龍馬と私』 桂浜の龍馬像

♪～みませ見せましょ、浦戸をあけて、月の名所は桂浜～♪ヨサコイ節にも歌われ、月の名所として有名な桂浜。高知市から車で15分程の位置にある。市内を流れる鏡川の川尻、西側に扇形に展開し、砂浜には太平洋の波が打ち寄せる。高知に台風接近という場合は、いつも西端にある龍王岬に打ち上がる波の状景が象徴的に放映される。仲秋の名月の季節はもちろん春夏秋冬、四季を感じて観光客や市民の絶好の観光スポットであり、若い人達には格好のデートスポットでもある。学生の頃は帰省するたびに「竜馬さんにおうてくる。」と言って訪れた。

小中高時代の遠足は「桂浜」が定番で、学校から徒歩で行き、砂浜いっばいに広がってフォークダンスなどした。一番の思い出は二十歳の頃、東京から帰省し、友人と連れ立って桂浜に繰り出した。整備されている今と違って当時は、海の家に近いような小屋の様なものが並んでいて、土産物を売っていたり、店先には縁台が置いてあって、酒やおでんやうどんなどが飲食できるようになっていた。4～5人連れであったが、店のおでんを鍋ごと買って、一升の酒をやかんで爛をしてコップ酒で大騒ぎをした。最後にはお店のおばさんもまきこんで、ヨサコイ節を歌ったり。上品ではないけれど忘れられない青春の一コマだ。

桂浜の北側の小さな丘の上に、龍馬像はある。昭和3年(1928年)に建立された銅像は、台座からの高さ5.3m。当時の青年有志の拠出した浄財で建立された。太平洋戦争末期の銅の供出も海援隊が海軍の祖であるというこ



とで中岡慎太郎像とともに供出を免れた。龍馬像は室戸の中岡慎太郎像とは海をはさんで対峙しており、足摺には中浜万次郎の像が建立されている。総髪にヨレヨレの羽織袴、革靴を履いて、目を細めて太平洋の彼方を望む龍馬。その先に何を見ていたのだろうか。「世界の海援隊でもやろうか。」彼の言葉が聞こえてきそうだ。



名数「三」 三つの特別なものアラカルトクイズ

- 「日本三景」松島 (①) 県) / 天橋立 京都府 / 厳島 (②) 県)
 「日本三大名園」兼六園 (③) 県) / 偕楽園 (④) 県) / 後楽園 岡山県
 「三筆」(⑤)) / 嵯峨天皇 / 橘逸勢
 「京都三大祭り」祇園祭 / (⑥) 祭) / ⑦ (祭)
 「日本三大祭り」神田祭 (東京) / 祇園祭 (京都) / ⑧ (祭) ヒント：7月末に大阪で開催
 「日本三大河」利根川 / (⑨) 川) / 吉野川 ヒント：川の愛称は筑紫次郎
 「御三家」尾張徳川家 / (⑩) 徳川家) / 紀伊徳川家 ヒント：納豆の本場といえば…



大雪 寒波 熱い冬



平昌オリンピック。零下10℃以下という厳しい寒さの中、アスリート達は熱く燃え、観ている者を感動させてくれた。五輪には女神と悪魔がいるといわれる。スピードスケートなど100分の1秒を競う競技だから銀メダル、銅メダルの差が0.01秒という。女神や悪魔がいてもおかしくない。どんな小さなミスも悪魔は見逃さないし、完璧でなければ神様も微笑まない。ジャンプ競技は風に左右される。長い助走から跳び出し、向かい風をつかまえる。後方に伸びた両手の先で風を自分のものにするのだ。横風や追い風はかえって強敵だ。飛行隊というよりは、鳥の様に美しいジャンプだ。テレマークも格好いい。ショートトラック競技は目がまわる。あっという間に勝負がつくし、転倒も多い。アルペン競技の特に滑降は興奮する。スキーで麓までの高低差1000m(女子は700m)の難しい斜面を織り交ぜたコースを一気に滑り降りて、そのスピードを競う。これはもう命がけだ。ひとつ間違えると大きな怪我につながってしまう。フィギュアスケートは冬季オリンピックの花だ。氷上をスケッチにアスリート達は思い思いの技を繰り広げる。中でもジャンプは高さで美しさと正確さが問われる。銀盤に衣装が映えてステップやスピニングが繰り返される。羽生選手のフリーは圧巻であった。彼の話では右足首の状態は完全ではなく負傷した時点から考えれば、まさにぶっつけ本番であった。テーマである陰陽師の曲もさることながらその演技は真に鬼気迫るものであった。小さなミスはあったがそれにしても公言していた通りの金メダルだから文句のつけようがない。異次元の域に達した感がある。逆境からはいあがるようにして手にした姿に深い感動を感じる。冬季オリンピックにもう1つの花はカーリング女子だ。長時間にわたる試合をねばって耐えて闘い続ける姿に、そしてその笑顔にほっとする。史上初めての銅メダル。泣いて笑って抱き合う姿に日本中が感動し、彼女らを祝福した。



メダルラッシュに沸いた日本であったが忘れてはならないのは惜しくもメダルには届かなかったが入賞した選手たちのこと、更には予選敗退してしまった選手のことである。そして各選手を指導しているコーチやスタッフのことである。そして家族の応援である。そうした人たちの支援の結果としてのメダルではなかったかなと思う。メダリストには祝福を入賞者には次の頑張りを、そして予選敗退した選手にも拍手を送りたい。

記録的な大雪や寒波が日本列島を襲って寒さに凍えたこの冬ではあったが、連日の熱戦に熱く燃えたこの冬でもあった。一抹の寂しさを残して平昌オリンピックの聖火が静かに闇に消えた。